



くらもとたかふみ  
議員 藏本隆文

### 豪雨災害の今後の対策と復興にむけて

議員 ①1月の北川地区被災者へのアンケート結果をどうとらえているのか。②導流堤の要望活動はどうなっているのか。③4月から始まる立木除去、浚渫について。④防災計画のスケジュールは。⑤2月に被災地を回った時に、何が解決し、何が課題と思ったのか。

市長 ①行政のサポートと市民ニーズの乖離を知ることができた。課題を洗い出し今後に生かしたい。発生直後の対応の反省点は大きいし、被災した方々への応援もスムーズにできたらよかった。②岡山県市長会、備後圏域連携協議会から県に要望書を提出した。③県から、国の補正予算及び緊急対策事業により、小田川の緊急性が高いと思われる箇所から市側についても、河道内の樹木伐採などを進め



ていくとの連絡があった。④防災会議を経て、3月中に改定の予定である。⑤約8割の住宅修繕が完了しているが、工事中のお宅もある。防災・減災事業の推進や災害対応能力向上が喫緊の課題である。

議員 北川の自主対策本部では、水位等の情報はすべて把握し消防団と共有していた。災害後の情報も笠岡放送に取材してもらい放送できなかったのか。

市長 現地を取材しての放送は今の体制では難しいとのことである。

議員 導流堤について、協議会等の団体を設置できないのか。

建設部長 どのような形で要望していくかは検討していきたい。



おおもとくにみつ  
議員 大本邦光

### 多様な分野の事業に用いるドローンの用途拡大を問う

議員 人命救助が最優先とされる災害初期に、孤立したり連絡手段が断たれた市民を把握する際、上空からの状況把握が可能なドローンは効果的手段ではないか。考えをたずねる。

市長 災害時にドローンを活用することで迅速な情報収集が可能になることは明らかで、それ以外にもさまざまな活用方法がある。ドローンの活用方法や操縦者の育成など検討していくとともに、ドローンを保有する消防組合と連携を図りながら対応していく。

議員 笠岡諸島の島と島を結ぶドローンの活用をたずねる。

市長 島間の物資輸送を重要な課題と捉え、関係機関とともに連携



を重ねている。航路のない島間の物流を補う新しい形としてドローンを使った輸送の実現を目指し、「しまっちんぐ」事業に参加している。

### 新しい時代に必要な力「プログラミング教育」

議員 来春の小学校でのプログラミング教育の必修化に伴う取り組みをたずねる。

教育長 来春の全面実施に向け、31年度はプログラミング体験を行うことができるインターネット上の教材を活用した指導について研修を行ったり、新学習指導要領に対応した小・中学校ICT環境整備事業の中でプログラミング教育に活用できるツールを導入したりして、指導しやすい教育環境の整備を行っていく。